

健康危機対応能力強化に向けた グローバル感染症対策人材育成・ネットワーク強化プログラム

アフリカにおけるJICAの感染症対策は大きく3つある。①アフリカ域内の拠点ラボの機能強化。②留学生の受け入れによる中長期的な人材育成。③アフリカ疾病対策センター(Africa CDC)や国際保健規則(IHR)履行促進のための合同外部評価などの地域・国際イニシアティブへの貢献だ。これらを国内外にある機関およびアフリカの各機関と連携しながら進め、健康危機への対応能力強化を行っている。



北海道大学では、今年8月からこうした専門家養成コースを修了した人や研究者、行政官など、すでに知識や技術を持った人を対象に、国内外に向けてリーダーシップを発揮し感染症対策に当たることのできる人材を育てるための「人獣共通感染症対策グローバルエキスパート養成コース」もスタート。長崎大学と連携してレベルの高い専門家の養成を行う。当該コースには感染症発生現場における研究なども含まれていて、受講生たちには、日本での授業だけでなく世界保健機関(WHO)や国際獣疫事務局(OIE)などの国際機関でのインターンシップ研

発生現場で 制圧対策の指揮を執る リーダーを育てる

4年の履修で感染症、もしくは獣医学の博士を目指す留学生たちは「これまで知りえなかった最新の技術や情報を知ることができ、携わることができるのがよい」と大きな希望を持って臨んでいる。

「先回りして対策をとり、早期に診断して早期に治療する人材を育てています」と語るのは同大学人獣共通感染症リサーチセンター教授の鈴木定彦さん。JICAの支援を受ける留学生だけでなく日本人の学生とともに学び、1学年定員12名という少数精鋭で感染症に関する教育を集中的に受けている。

「先回りして対策をとり、早期に診断して早期に治療する人材を育てています」と語るのは同大学人獣共通感染症リサーチセンター教授の鈴木定彦さん。JICAの支援を受ける留学生だけでなく日本人の学生とともに学び、1学年定員12名という少数精鋭で感染症に関する教育を集中的に受けている。



結核の研究に取り組む留学生。整った設備の中で学べる。

北海道大学

MISSION4 人材育成

即時に対応できる 人を育てる

感染症が発生した際、他国からの支援者の到着を待たず、技術と知識を持ってすぐに対応する——これこそが封じ込めに最大の効果を発揮する。そうした現地のリーダーたる人材を育成するため、日本で留学生の受け入れが始まっている。



国際感染症学院の授業。



北海道大学
人獣共通感染症リサーチセンター教授
鈴木定彦(すずきやすひこ)さん
公衆衛生と感染症が専門。JICAとともに人材育成を進めながら、人獣共通感染症の流行予測と予防・診断・治療などに力を注いでいる。

長崎大学



ワークショップ後に各自の考えを発表。授業は英語で行われている。

日本の技術と知識を習得 高いスキルを身につける

「感染症に関する日本の技術や新しい情報、知識を習得して自国へ持ち帰り、リーダーシップを持って活躍する国際的人材の育成を始めています」と長崎大学の森田公一さん(9ページ)は言う。強靱な保健システム構築においては、人材の育成も大きな柱のひとつ。長崎大学では、熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラムを設けて、コンゴ民主共和国(以下、コンゴ民)やナイジェリア、ケニアなどから2017年度は5名、本年は3名の留学生を大学院で受け入れた。医師や研究者などが学んでいるという。

北海道大学でも17年、人獣共通感染症対策の専門家を養成するため、獣医学、医学、歯学、薬学などを学んだ人が受講できる国際感染症学院を開講。「人獣共通感染症対策専門家認定プログラム」を実施している。